

松村孝夫会長を議長として次の項目について議事が進められ、審議の結果、全て原案どおり承認されて決議成立しました。

- ・報告事項；2022 年度事業報告（会長及び専務理事の職務執行状況の報告）
- ・第 1 号議案：2022 年度貸借対照表・損益計算書（正味財産増減計算書）・財産目録
・貸借対照表及び損益計算書の注記・附属明細書と監査報告
- ・第 2 号議案：2023 年度事業計画書と収支予算書
- ・第 3 号議案：新たに理事 1 名を選任する件

なお新理事に、水田仁氏（関西電力株式会社 執行役常務）が選任されました。

続いて同会場で 2022 年度 ONSA 賞授賞式が行われ、松村会長から 3 名の受賞者に賞状と助成金が贈呈されました。それぞれの受賞者の挨拶の後、記念撮影が行われました。受賞者のご挨拶は業績の概要と共にこのニュースで紹介します。

以上で 2023 年度定時会員総会が閉会しました。この後会場で 30 分程度、参加会員、ONSA 賞受賞者、関係者約 15 名の間でなごやかに懇談が行われました。次年度からはより多くの参加者による交流会の再開が望まれます。

2023 年度からの ONSA の事業のご紹介

事業計画は概ね例年を基本として継続すると共に、より魅力あるものにするために随時新たな企画に改めます。

1. 放射線に関する知識普及と会員への情報提供

これまでの重要な活動の継続のために「みんなのくらしと放射線知識普及実行委員会」に参加して一般市民などへの放射線の知識普及活動「みんなのくらしと放射線展」を開催します。

放射線・原子力分野で放射線科学研究会（年 3 回、第 1 回は本ニュースに案内掲載）、第 32 回放射線利用総合シンポジウム（2024 年 1 月に開催予定）や施設見学会を開催し、情報交換を行うと共に、相互交流を図ります。また ONSA ホームページ、ONSA ニュースと電子版を活用して、情報を提供します。

[ONSA 会議室の活用] ONSA の活動目的に沿った会員の企画によるミニ研究会（出席者 10 人前後、Online 開催も可能）やミーティングをサポートします。ご希望があればご相談ください。

2. 委託業務、調査・研究などの受け入れ

行政機関、公設研究機関、民間などから登録機関等としての業務、調査や研究を受託します。大阪公立大学からは、ガンマ線照射の受付等業務を受託しています。また ONSA では、ガンマ線の超精密な吸収測定を依頼先からの試料で測定した実績があります。今後ともこのような測定依頼のご希望がありましたら、是非ご相談ください。

3. 放射線関係団体、行政との連携活動

全国の団体との連携、実行委員としての活動を行います。

4. 放射線利用に関する優れた研究・活動の顕彰と支援

放射線や放射性同位元素等に関わる優れた研究・活動の奨励のために ONSA 賞を贈り、今後の活動を応援します。広く企業、学校、研究機関などにおいて、関係する研究、産業における利用の促進や普及、または人材育成での優れた業績を対象としていますので、多くのご応募をお願いします。

5. 技術相談

放射線計測等の実施、放射線利用機関の紹介や、放射線被ばくなどの相談を受けています。

6. その他の活動

一例として、大阪府立大学で開発された便利で高性能なペルチェ冷却型霧箱を受託販売しています。

大阪ニュークリアサイエンス協会賞受賞者のことば

京都大学 大学院生命科学研究科 がん細胞生物学分野

教授 原田浩

受賞課題：低酸素生物学を基盤にした「がんの放射線抵抗性の理解と克服」に関する研究

★ 受賞の挨拶

歴史ある大阪ニュークリアサイエンス協会賞（ONSA 賞）を受賞させて頂きましたことを、放射線に関わる研究に従事する者としてたいへん光栄に存じます。この場をお借りして、これまでご指導下さった平岡眞寛先生をはじめ、共同研究などを通じて私共の研究を助けて下さった皆様方に、心よりお礼申し上げます。

私は、腫瘍組織の中に存在する酸素分圧の低い微小環境に着目して、放射線腫瘍生物学研究を進めています。放射線生物学の分野では、酸素分子のもつ放射線増感作用（放射線の殺細胞効果を高める作用）が古くから知られていますが、低酸素環境にあるがん細胞がどの様にかんがいの再発に寄与しているのかについて、詳細は分かっていませんでした。私はこの課題の解決に遺伝子組換え技術を駆使して取

